(財)財務会計基準機構会員

平成20年10月31日

各 位

上場会社名　東邦亜鉛株式会社
代表者　代表取締役社長 手島 達也
(コード番号　5707)
問合せ先責任者　経理部長 今井 通弘
(TEL　03-3272-5614)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	57,000	6,700	6,500	3,850	28.35
今回発表予想(B)	59,000	5,400	4,300	2,600	19.15
増減額(B-A)	2,000	△1,300	△2,200	△1,250	―――
増減率(%)	3.5	△19.4	△33.8	△32.5	―――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	76,425	9,422	9,571	5,696	41.94

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	116,000	13,000	12,500	7,100	52.28
今回発表予想(B)	103,000	6,300	4,800	2,700	19.88
増減額(B-A)	△13,000	△6,700	△7,700	△4,400	―――
増減率(%)	△11.2	△51.5	△61.6	△62.0	―――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	147,390	17,283	17,251	9,949	73.26

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	54,000	6,100	6,400	3,750	27.61
今回発表予想(B)	54,900	4,600	5,000	800	5.89
増減額(B-A)	900	△1,500	△1,400	△2,950	―――
増減率(%)	1.7	△24.6	△21.9	△78.7	―――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	71,946	8,750	8,872	5,284	38.91

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	110,500	11,500	11,500	6,800	50.07
今回発表予想(B)	94,500	4,700	6,500	2,200	16.20
増減額(B-A)	△16,000	△6,800	△5,000	△4,600	―――
増減率(%)	△14.5	△59.1	△43.5	△67.6	―――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	138,256	15,737	15,521	8,824	64.98

修正の理由

1．第2四半期累計期間業績について

（1）連結業績予想

当社グループの主力事業である亜鉛・鉛製錬部門は、米国発の金融不安から実体経済へのマイナス影響が懸念されたことにより、LME（ロンドン金属取引所）価格が大幅に下落したうえ、原油等のエネルギーコスト及び製錬用材の価格上昇の影響を受けました。

さらに、LME価格の下落は当社グループの出資先である豪州の鉱山会社（CBH Resources Ltd.）をも直撃し、持分法による投資損失（約10億円）等も加わり営業利益、経常利益及び純利益とも減少する見込みです。

（2）個別業績予想

個別業績予想については、上記連結業績予想の減益要因に加えて、既に10月2日に発表いたしました関係会社株式評価損（約35億円）を特別損失として計上することにより、純利益は大幅に減少する見込みです。

2．通期業績について

第3四半期以降の業績については、世界的な金融危機の影響により、なお一段の景気後退が予想されるなか、LME（ロンドン金属取引所）価格の下落基調に加えて円高の影響もあり、極めて厳しい事業環境が想定されます。

こうしたなか、この難局を打破すべく諸施策を実施中でありますが、亜鉛・鉛製錬部門の業績悪化は避けられず売上高、営業利益、経常利益及び純利益とも減少する見込みです。

（注）上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後発生する様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上